

重機移植工法

重機移植工法

フォーク状のツメを持つ専用の移植機械が掘取り、運搬、植付けを一台で行う。短時間に樹形を損なわずに移植し、同時に従来の工法では不可能だった植生基盤（表土、埋土種子、土中生物、低木地被類など）の面的移動を行う。

市街地の再開発における既存木の再配置や造成地での里山の復元など様々な現場において、大径木から根株、低木まで今ある自然資源を有効に利用する、経済的かつ自然環境保全の面からもすぐれた工法である。



キャタピラー型移植重機

移植重機の特長

- ・根鉢を大きくとるため、移植時期を選ばず活着がよい。
- ・根鉢廻りを掘削しないので、密集樹林や傾斜地でも掘取りできる。
- ・枝をしおらずに運搬し、剪定も最小限ですむので自然樹形を損なわない。
- ・掘取りから植付けまでが短時間で人手がかからず、低コストである。
- ・根鉢とともに周囲の植生基盤を一体として移動し、生態系を早期に再生可能な植生地に仕上げる。(写真)

重機移植の用途

- ・既存の樹林をそのまま移動し、緑地帯として活用(写真)
- ・道路や公園、団地の改修に伴い、並木や景観木を移動
- ・防災緑地、防風林などの早期造成
- ・伐採樹木の根株を緑化資材として活用(写真)



写真



写真



写真